

～HIV 陰性 (-) の結果について～



◆「HIV 陰性」の意味 ◆

「HIV 陰性」という結果は、あなたが HIV に感染していないことを示しています。今回の結果は、これまでのあなたの行為（主に性行為）が HIV 感染の可能性のなかったことを示しているのかもしれませんが、あるいは、感染の可能性のある行為があったけれども偶然に感染しなかっただけかもしれません。

◆ 感染の可能性のある行為と検査の時期 ◆

HIV に感染しても、血液検査ですぐに「HIV 陽性」の結果が出るわけではなく、ある程度の時間がかかります。したがって、ごく最近に感染の可能性のある行為（多くの場合性行為）があれば、この「HIV 陰性」という結果は確定的なものとはいえません。HIV に感染すれば、おおむね4週間以内に「HIV 陽性」の結果が得られると考えられています。この期間には個人差があるので、感染のリスクのある機会があって3ヶ月を経過して陰性であれば確実に感染していないと判断します。

感染しているのではないかと不安がある場合、感染のリスクのある機会から短期間であっても検査を受けることをお勧めします。その結果が陰性であった場合、感染していないことを確認するために3ヶ月経過してから再度検査を受けるとよいでしょう。

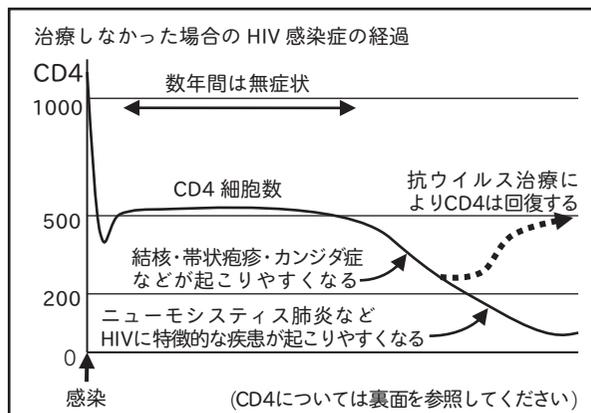


****HIV と AIDS****

◆ HIV/AIDS の基礎知識 ◆

- HIV とは Human Immunodeficiency Virus (ヒト免疫不全ウイルス) の略で、HIV に感染した状態を放置すると、数年～十数年の間に次第に免疫機能が低下してきます。
- AIDS (エイズ) とは Acquired Immunodeficiency Syndrome (後天性免疫不全症候群) の略で、HIV によって免疫機能が低下し日和見感染症を発症した状態をさします。
- 免疫とは、病原体 (病気の原因となる微生物) が体の中に入り込んだときその病原体の増殖を抑制し排除しようとする人体に備わっているシステムです。
- 日和見感染症とは、免疫機能が低下したときのみ発症する感染症です。たとえば、AIDS に特徴的な疾患のひとつである「ニューモシスティス肺炎 (カリニ肺炎)」の原因となる真菌 (カビ) は、多くの人の肺の中にいますが、免疫機能が低下しない限り肺炎を引き起こすことはありません。
- つまり、HIV とはウイルスの名前で、AIDS とは HIV による病気の名前です。

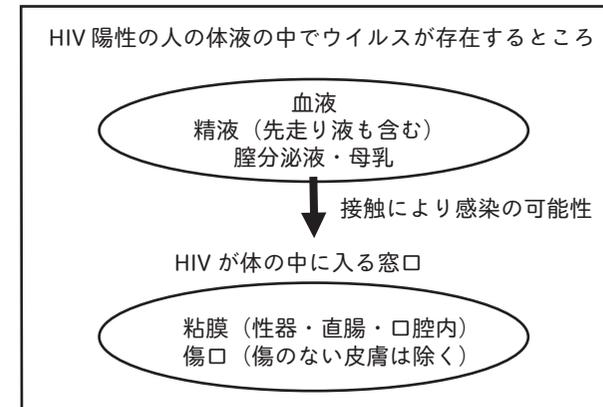
◆ HIV 感染症の自然経過 ◆



上の図のように、HIV に感染してもすぐに症状がでるわけではありません。数年間は何の症状もない期間があり、HIV の血液検査を受けなければ感染していることを知ることはできません。感染していることを知らないうちに他の人に感染させる可能性もあります。

****HIV 感染の可能性のある行為について ****

◆ HIV 感染の考え方 ◆



HIV を含む血液・精液・膣分泌物が直接粘膜や傷口に接触することで感染する可能性が生じますが、多くの場合コンドーム使用などの工夫で直接の接触を防ぐことができます。粘膜に炎症や潰瘍があると HIV は体内に侵入しやすくなります。

◆ HIV 感染の可能性のある性行為 ◆

(陽性の人が必要な治療を受けていない場合)

陽性の人	感染する可能性のある人	感染の可能性あり○ 感染の可能性なし×
□ (くち)	□ (キス)	×
	男性性器 (フェラチオ)	×
	女性性器 (クニリングス)	×
	肛門 (リミング)	×
男性性器	□ (フェラチオ)	○ HIV を含む精液 → 口腔粘膜
	女性性器 (膣性交)	○ HIV を含む精液 → 膣粘膜
	肛門 (アナルセックス)	○ HIV を含む精液 → 肛門・直腸粘膜
女性性器	□ (クニリングス)	○ HIV を含む膣分泌物 → 口腔粘膜
	男性性器 (膣性交)	○ HIV を含む膣分泌物 → ペニスの先・尿道
肛門	□ (リミング)	○ 肛門出血 → 口腔粘膜
	男性性器 (アナルセックス)	○ 直腸肛門からの出血 → ペニスの先・尿道

～HIV 陽性 (+) の結果について～



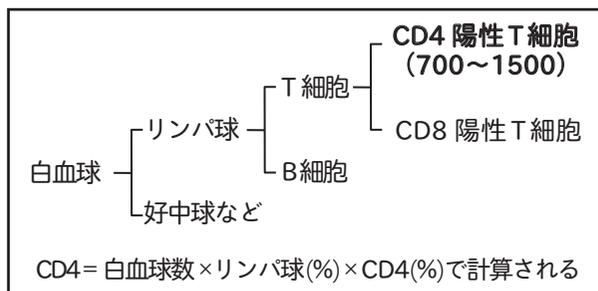
◆「HIV 陽性」の意味◆

「HIV 陽性」という検査結果は、あなたの体の中に HIV というウイルスがいることを意味しています。感染をそのままにしておくと次第に免疫機能が低下してきて、日和見感染症にかかる可能性が高まります。現在の抗ウイルス治療は、免疫機能の低下を抑えることができますし、一旦低下した免疫機能の回復も期待できます。陽性とわかれば医療機関を受診して自分の免疫状態 (CD4 など) を知ることが大切です。

◆自分の免疫状態を知る◆

HIV に感染していることがわかって病院に行くと、詳しい血液検査がおこなわれます。血液中で免疫を担当しているのが「白血球」ですが、その中で免疫をコントロールしているのが「CD4 陽性リンパ球 = CD4」と呼ばれる細胞です。通常は血液 $1 \mu\text{l} (\text{mm}^3)$ 中に 700～1500 個程度ありますが、HIV に感染すると次第に減少し、おおむね 200 以下になると「日和見感染症」にかかりやすくなります。CD4 は現在のあなたの免疫状態を評価する重要な指標です。

◆白血球・リンパ球・CD4◆



****HIV 感染症の治療****

◆抗ウイルス治療◆

1996 年以降、強力な抗ウイルス作用を持った薬が次々に開発され、3～4 種の薬を組み合わせ内服する「多剤併用治療」により、AIDS 発症率や死亡率は大きく減少しました。HIV に感染していても、感染していない人とほぼ同じ寿命が得られるようになりました。最近では、1 日 1 回 1 錠で十分な効果がある合剤が抗ウイルス治療の中心となっています。

◆抗ウイルス治療の開始時期◆

HIV 陽性とわかればできるだけ早く治療を開始することが推奨されています。その理由として、早期に治療開始した方が HIV に関連した疾患だけでなく HIV と直接関係のない疾患のリスクも減少することがわかってきたこと、副作用が少なく内服しやすい薬剤が開発されてきたこと、治療が予防につながるということが明らかになったことがあげられます。

◆治療すれば感染しない (U=U)◆

U=U は Undetectable (検出限界値未満) = Untransmittable (感染しない) を略したものです。効果的な HIV 療法を受けて血液中の HIV の量が検出限界値未満のレベルに継続的に低く抑えられている HIV 陽性者からは、性行為によって他の人に HIV が感染することはないことが明らかになっています。

◆HIV 感染症診療拠点病院◆

全国に約 380 の「拠点病院」・各都道府県に「中核拠点病院」・8 つの地方に「ブロック拠点病院」が整備されています。これらの病院では、どこでも質の高い治療を受けることができます。

◆医療費◆

最初は健康保険を利用して診療を受けることになり、通常は医療費の 3 割が自己負担となります。抗ウイルス治療が始まると、身体障害 (免疫機能障害) の認定を受けることにより、医療費の助成制度が利用できます。(所得に応じた自己負担あり) 多くの病院で MSW (医療ソーシャルワーカー) が相談に応じています。健康保険や医療費助成制度を利用することでプライバシーが漏れる心配はありません。

****HIV と生活****

これまでの生活を変える必要はありません。

◆仕事など◆

HIV 陽性だからできない、というものはありません。感染がわかった多くの人が、それまでと変わりなく仕事や学業を続けています。職場や学校で HIV 陽性であることを表明している人もいますが、陽性であることを伝えなければならないというような義務はありません。

◆だれに伝えるか◆

HIV 陽性の結果をいつ誰に伝えるかということは、よく考えて決めるほうがよいでしょう。セックスのパートナーには結果を伝えて HIV 検査を勧める必要がありますが、急ぐことはありません。また、信頼できる人に伝えて支援を得ることも大切ですが、いずれもあなた自身が HIV のことを十分理解してからでも遅くないと思います。

◆セックス◆

継続的な治療を受けていない場合には、セックスによって HIV を感染させる可能性があります。治療によりウイルス量が継続的に十分抑制されれば、セックスによって相手に HIV を感染させる可能性はありません。しかし、セックスによってあなた自身が他の性感染症に感染する可能性もあります。このような感染を防ぐためには、性感染症がどのように感染するのか理解し、たとえばコンドームを使用するなどの工夫をすることが大切です。

◆カウンセリング◆

病院によっては HIV 専門のカウンセラーがいますが、あなたが受診した病院に専門カウンセラーがいない場合には、都道府県の「派遣カウンセラー制度」を無料で利用することができます。カウンセリングがどのようなものなのか、一度主治医にきいてみるとよいでしょう。

◆HIV 陽性者に対する支援◆

HIV 陽性者を対象とした相談機関や電話相談があります。また、陽性者のグループや陽性者を支援する団体もあります。相談窓口は、以下のアドレスにアクセスして下さい。

<https://www.hivkensa.com/soudan/>